

第9回教育研究評議会（定例）

開催：令和7年10月1日(水)

場所：本部棟2F会議室、オンライン

出席：三谷学長、水井理事、中藤理事、善家理事、鈴木理事、高須副学長、福本副学長、神谷副学長、中村副学長、修行副学長
美藤工学研究院長、坂本情報工学研究院長、和田生命体工学研究科長、山路教養教育院長

臨席：松田監事、林田監事

No.	種別	議題	結果	主な意見
議題 1	(審議)	地域経済の活性化に向けた「DX人材リスクリング」等に関する協定	原案のとおり承認	<p>(質問・意見) 今回の協定の目的や学生に対する価値、本学としての本当の狙いをもう少し明確にすべきでは。</p> <p>(回答) 協定はブランディングの強化や、関東圏の企業へのリーチを目的としている。本学の教育リソースを活用し、学生や卒業生の副業・兼業支援、地域企業との連携を促進する狙いがある。今後、本学側のメリットと目論見を整理して発信予定。</p> <p>(質問・意見) クラウドワークスを使ってKyutechARISEのコンテンツ告知などを広報するのか。また、クラウドワークスを選んだ理由は何か。</p> <p>(回答) クラウドワークスは日本最大級の副業・兼業エンジニア人材を抱えており、九州へのリーチが弱い。本学との連携で相互にメリットがあるため三者協定とした。若手エンジニア層へのアプローチも狙い。</p> <p>(質問・意見) クラウドワークスは就職支援ではなく、仕事の紹介をする会社なのか。</p> <p>(回答) クラウドワークスは副業・兼業のマッチングを中心としたプラットフォームであり、学生との関係は情報提供にとどまる可能性がある。大学が派遣する形ではなく、個人登録が基本になる。</p> <p>(質問・意見) クラウドワークスの立ち位置や役割が分かりづらい。就業支援の具体的な仕組みは。</p> <p>(回答) クラウドワークスは広報・マーケティングに強みを持ち、エンジニア向けの大規模なデータベースを活用して副業・兼業の機会を提供する。本学・KyutechARISEの教育コンテンツや卒業生とのマッチングを通じて、地域企業との連携を図る。</p> <p>(質問・意見) 単なるアウトソーシングではなく、本学が主体的に関与し、広報やマーケティングの力をつけるような活動にすべきではないか。</p> <p>(回答) 単なる外注ではなく、本学が主体的に関与し、広報・マーケティングのノウハウを蓄積することを重視。学生や教職員の力を育てる機会と捉えている。</p> <p>(質問・意見) 地域の中小ゼネコンや国道事務所など、土木建築分野のDX推進が遅れている。本学が建設系教員を巻き込んで支援すれば、地域貢献につながるのではないか。</p> <p>(回答) 土木系人材のDXリスクリングも柱の一つ。準大手ゼネコンとの連携も進めており、地元の難しい分野に大学として取り組む意義がある。</p>
議題 2	(報告)	国際交流協定等の締結および終了について		<p>(質問・意見) 本件協定終了について、紛争解決条項が原因とのことだが、実質的なデメリットはあるのか。これまでの交流活動に支障が出るのではないか。</p> <p>(回答) 協定終了の直接的な原因は、相手国政府から提示された条件が日本側の通常の対応では受け入れられない内容だったため。今後、希望があれば再度検討する可能性はある。なお、国際交流は多くの場合、個別の教員間の関係に基づいており、教員の退職などでも協定が終了することがある。協定がないと学生派遣や受け入れに予算がつかない場合もあるため、協定の存在は重要。</p> <p>(質問・意見) 協定が教員個人の関係に依存している場合、大学としてのメリットや継続性が不透明ではないか。協定の目的や活動内容を明確にすべきではないか。</p> <p>(回答) 現在の協定の多くは、個別教員の交流を起点としているが、大学としての組織的な連携がある場合は、より発展的な事業が可能。重点校との連携や、派遣人数などのKPIを意識したプログラムの整理が必要。大学としてのメリットを把握し、発信する体制づくりが求められる。</p>
議題 3	(審議)	教育職員の選考	承認 (1) 工学研究院物質工学研究系 教授 1 名（内部昇任） (2) 情報統括本部情報基盤センター 教授 1 名（内部昇任）	<ul style="list-style-type: none">・(2)について、選考調書における誤字については、修正することとした。・(2)について、資格審査を行っていない教育職員が、大学院の講義や学生指導を担当する場合には、当該部局で改めて資格審査を行うことが必要。・人事記録のDX化を進め、審査履歴や担当部局の情報を明確に管理する必要性が共有された。
議題 4	(審議)	教育職員に関するテニュア審査に基づくテニュア付与	原案のとおり承認され、役員会に付議 (1) 工学研究院電気電子工学研究系 助教 テニュア中間審査「S」 R7.11.1付テニュア付与 (2) 情報工学研究院知能情報工学研究系 助教 テニュア中間審査「S」 R7.11.1付テニュア付与	